

生活インフラとしての存在を目指して

ローソンは、マチで暮らすお客さまにとっての生活インフラの一部となることを目指し、「ローソンがあって良かった」と感じていただける“マチのほっとステーション”を実現していきます。

毎日便利で安心なローソンの実現

ローソンは、全国47都道府県で店舗を展開する事業基盤を生かし、公共料金の支払いなど、みなさまの日常生活に不可欠なサービスの提供と利便性の追求に取り組んでいます。また、さまざまなお客さまに安心してご利用いただけるよう店舗のバリアフリー化も進めています。

店内に郵便局を開局

日本郵政株式会社と総合的提携をするローソンは、全店舗への郵便ポストの設置、郵便局内への出店など、全国ネットワークを生かし重要な生活インフラである郵便の利便性向上に取り組んできました。この経験を生かし、2008年9月、ローソン^{さかきむらかみ}坂城村上店(長野県)^{かみこみょう}の店内に、上田郵便局上五明分室を開局し、郵便局業務を開始しました。2007年9月に閉鎖された郵便局を再開する取り組みで、地域の利便性向上を進めていきます。



さまざまなサービスの窓口

貯まったポイントがレジでご利用可能に

これまで、ローソンのポイントカードで貯めたポイントをお買い物に利用す

るには、店内のマルチメディア情報端末「Loppi」でお買い物券を発券する必要がありました。2008年12月より、レジでポイントを直接お買い物に利用できるサービスを開始し、利便性が大幅に向上しました。

電子決済端末

決済手段の多様化とレジ精算の時間短縮を目的に、全国の店舗^{*1}で電子決済による支払いサービスを導入しています。「iDTM^{*2}」「QUICPayTM^{*3}」「Edy^{*4}」「ビザタッチ(スマートプラス)^{*5}」に加え、2009年4月には東日本旅客鉄道株式会社の「Suica^{*6}」による決済をコンビニエンスストアとして店舗数規模で最大となる約3,300店舗で導入し、より多くのお客さまにご利用いただけるようになりました。



- ※1 一部店舗を除く
- ※2 「iD」：株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモの商標
- ※3 「QUICPay」：「モバイル決済推進協議会」の推奨スキーム
- ※4 「Edy」：ビットワレット株式会社が管理するプリペイド型電子マネーサービスのブランド
- ※5 「ビザタッチ(スマートプラス)」：ビザタッチはVISAインターナショナル、スマートプラスは三菱UFJニコス株式会社が提供する非接触決済サービス
- ※6 「Suica」：東日本旅客鉄道株式会社の登録商標

ATMサービスの提供

日本国内の都市銀行、地方銀行、信用金庫などのキャッシュカードおよびゆうちょ銀行のカードによるお引き出しや、クレジット会社などのキャッシングが可能なATMサービスを提供しています。2009年5月末日現在、ローソンATMのサービス地域は38都道府県にわたり、提携金融機関は全都市銀行と地方銀

行、ネット銀行の32行、ATM設置台数は6,177台となりました。

マルチメディア情報端末「Loppi」

店頭に設置されたマルチメディア情報端末「Loppi」は、子会社である株式会社ローソンエンターメディアが扱うコンサートチケットをはじめ、スポーツ振興くじ「toto」、交通チケットやレジャーチケットの購入、DVDの予約や資格試験の申し込みなども行えます。

店舗のバリアフリー化

高齢の方や妊娠している方、障がいのある方などにも快適で使いやすい店舗を目指し、バリアフリー化を進めています。



新規オープン店舗では入口の段差をなくすほか、駐車場のある店舗には車椅子使用者用駐車場(1台分)を設置。トイレには手すりを設置した洋式トイレを採用するとともに、入口の段差をなくしています。

一部店舗では高齢のお客さまに配慮して、ショッピングカートや大きいプラスチックカードの導入も行っています。

また、どなたにも安心してご利用いただけるよう、店舗での「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」の受け入れを行っています。



店頭ガラス面でワーキングドッグの受け入れを告知

次世代を担う子どもたちのために



ローソンは、子どもたちが健やかに育つ環境をつくることにより、世の中に活気があふれ、マチが元気になると考えています。私たちはマチと一体となって次世代を担う子どもたちや子育て家族を支援する活動に取り組んでいます。

子どもたちの成長に向けて

ローソンは次世代を担う子どもたちに、仕事を通して学び考える機会を持ってほしいと願っています。そこで地域貢献活動の一環として小学生の社会科見学や体験学習を受け入れているほか、外部の団体と協力して、子どもたちが社会の仕組みを知り、自分と社会について考える場を提供しています。

ゲストハウスで地元小学校の企業見学を受け入れ

2008年7月29日、研修施設であるローソン東富士ゲストハウスで地元小学校の企業見学を受け入れました。

これは、静岡県小山町立明倫小学校が主催した「ふるさと学級町内めぐり」という地域学習にローソンが協力し、子どもたちに「働くことの楽しさ」「自分たちの生活や小山町とのかかわり」などについて学んでもらおうと毎年実施しているものです。当日は32人の子どもたちが参加し、レジの操作体験や接客体験が行われました。



京都市スチューデントシティで小学5年生が店舗の仕事を体験

2007年1月から「京都市スチューデントシティ」に体験店舗を出店していま

す。この施設は、京都市・京都市教育委員会と世界最大の経済教育団体であるジュニア・アチーブメントの日本本部によって開設された施設。京都市内の小学5年生の授業の一環として体験学習を行っています。施設にはローソンのほか、区役所や銀行、新聞社、京つけもの販売店など12の企業・団体が協力し、小さなマチを再現。子どもたちは事前学習で社会の仕組みや働くことの意味を学び、体験学習に臨んでいます。

ローソンの体験店舗では、接客やレジ操作などを行います。最初は恥ずかしくて大きき声であいさつができるようになるなど、仕事を通して多くのことを体験し、学んでいるようすがうかがえます。



子ども会のセミナーに協力

2008年11月25日、兵庫県西宮市のこしきいわ会館において、「北夙川(きたしゅくがわ)連合子ども会」主催の「プロから学ぶキッズセミナー」に協力しました。これは子どもたちの知的好奇心を育むことを目的に、机上では得られない「学びの体験」をさせたいという企画にローソンが賛同・協力したものです。

当日は、北夙川地区の子どもたちと保護者のみなさまなど80人が参加。子どもたちは、ローソンのユニフォームに着がえ、本物の店員さんながら接客、商品陳列、「緑の募金」の取り組みなどに

ついて学んだほか、実際の商品陳列体験も行いました。



子育て応援コンビニ「ハッピーローソン」を展開

子育て中の家族を応援する取り組みとして「ハッピー子育てプロジェクト」を進めています。これは2005年の創業30周年記念として「未来のコンビニを考えよう」をテーマにアイデアを募集し、そのとき最優秀賞に決まった「子育て応援コンビニ」がきっかけで始めたプロジェクトです。

2007年7月にオープンした「ハッピーローソン山下公園店」には、子育て家族のみなさまから寄せられたアイデアがふんだんに採り入れられています。ベビーカーでも通りやすい広めの通路、お子さんが遊ぶ広場、ママたちが気軽に集える休憩スペースを設けています。また、商品においても、紙おむつやベビーフードをはじめ、絵本やおもちゃ、ママのための癒し系グッズなどを扱っています。



さまざまな社会貢献活動

店舗はもちろん、企業としてのローソンも、日々たくさんの方々に支えられて存在しています。私たちはこのことを認識し、途上国での支援やお客さまの社会貢献活動を支えるインフラづくりなどさまざまな分野での活動に取り組んでいます。

海外での教育支援の取り組み

世界には、子どもたちが教育を受ける十分な環境が整っていない国々が多くあります。国際社会の中で、ローソンはそうした国々において、外部の団体を通じて学校建設という教育の場を設ける取り組みや、高度な教育を受ける支援活動を行っています。

アクセサリーの売上の一部でラオスに小学校を建設

NPO法人「恵まれない子供達に学校をつくる会」を通じてラオス人民民主共和国サイヤブリ県ノンサワン地区に学



校を建てました。ボランティア活動に熱心に取り組む同人理事でネイルアーティスト草野順子さんの“途上国に学校をつくりたい”という想いに賛同して実現した取り組みです。

2007年3月より全国のローソン店舗で販売している『草野順子プロデュース オリジナルアクセサリー』などの売上の一部を寄付金とし、ノンサワン小学校は建ちました。開校は、2008年12月3日でした。

今回の取り組みは、メーカーと協力し作った、オリジナルアクセサリーなどをローソン店舗で販売することにより実現しました。商品パッケージには寄付の主旨が記載されており、お買い求めいただいたお客さまの善意が小学校建設という形になりました。

また、開校に合わせて校庭に果樹を



植えました。

小学校の開校後は、草野さんの想いをさらに進めるため教育プログラムの拡充を進めています。ラオスの人々が国際社会で活躍できるよう英語教育プログラムや、情動的な側面から絵画教室なども取り入れられる予定です。

ベトナムの留学生を対象に奨学金制度を設立

日本に留学を希望するベトナムの学生のための奨学金制度を設けました。2009年3月には一期生となる2人の留学生が来日し、4月より日本の学校に入学しました。

ローソンは商品の原材料調達の縁を発端に、ベトナムとの関係を築いてきました。ベトナムの学生は勤勉で、多くの学生が日本への留学を希望しています。そうした学生へ教育の機会を提供するため今回の制度を設立しました。この制度の設立がベトナムの発展に寄与し、さらには日本とのいっそうの友好関係構築を期待しています。

プロジェクト発起人の声

夢のトピラを開くラオスの学校建設

NPO法人「恵まれない子供達に学校をつくる会」理事 ネイルアーティスト
草野順子さん

若いときから何か社会貢献をしたいと考えていました。子育てなど生活の合間に、手話などのボランティアを続けていましたが、もっと根源的な社会貢献をしたいと思っていました。

途上国が途上国である理由は教育がしっかりなされていないからではないかと思えます。教育は国の土台となるものです。その部分を助ける活動がしたかった。だから学校をつくらうと思いました。とはいっても個人の方ではあまりにも小さくてどうにもなりません。どうしたらいいのだろうかと何年も悩んでいるうちにローソンの商品開発担当者と偶然に会いました。そのとき夢のトピラがパッと開いていきました。目の前が急に明るくなったような感じです。

実際に学校が建つまでに、大勢のヒトの協力がありました。会ったことがないヒトたちからたくさんのサポートがありました。会ったことがないヒトたちとは、お客さま、ローソンのお店、商品に係った協力企業の方々です。少しずつの力が積み重なってラオスの小学校は建ちました。みなさんの善意で建った学校です。いま考えてみると、魔法の学校のような感じです。とても不思議な気持ちでいっぱいです。





社会貢献活動の インフラとして

ローソンは、お客さまが行う社会貢献活動をサポートしています。お客さまが、お買い物を通じて社会貢献できるサービスや商品を提供しています。

ローソンポイントカードの 「環境社会貢献コース」

お客さまの日ごろのお買い物が社会貢献につながるお手伝いとして、ローソンポイントカードのポイントプログラムに「環境社会貢献コース」を用意しています。これは、1口10ポイント=10円を、社会貢献活動を行う各団体に寄付金として贈呈するもので、2003年から実施しています。

2008年度は合計3,857,450円を、次の6団体に寄付しました。



認定NPO法人 幼い難民を考える会 (CYR)

カンボジアで、幼児期の子どもたちが安心して過ごし、教育を受けられるよう、先生の育成や給食の提供、環境整備などの保育支援を行っています。



©小林正典

認定NPO法人 ブリッジ エーシア ジャパン (BAJ)

女性や難民など、困難をかかえる人たちを対象に技術習得の場を設け、さらに身に付けた技術を収入に結びつけるための支援を行っています。



財団法人 日本盲導犬協会

“目の見えない人、目の見えにくい人が安全に行きたい場所に出かけられるように”、快適な盲導犬との歩行を提供するための活動をしています。



NPO法人 ESA アジア教育支援の会

「教育こそ人間の尊厳を守り、貧困と差別を克服する大きな力」と考え、バングラデシュ、インドで一人でも多くの子どもが基礎教育を受けられるように支援活動を行っています。



NPO法人 エコロジー・カフェ

身近な生態系、地域に固有の動植物の保全・保護活動や、自然環境を題材とした子どもたちの学習機会を提供しています。



社団法人国土緑化推進機構 (ローソン「緑の募金」)

国内外の森林整備活動や小学校を中心とした学校での緑化活動を支援しています(詳細はP19参照)。

『ミッフィー』グッズプレゼント キャンペーンで商品を寄贈

ローソンでは子育てプロジェクト活動の一環として、オランダの絵本作家ディック・ブルーナの代表作『ミッフィー』をあしらった小皿やマグカップなどのプレゼントキャンペーンを実施。グッズ1つの引き換えにつき1円として、その総額相当分の商品を社会福祉法人全国社会福祉協議会・全国母子生活支援施設協議会に寄贈しています。2008年度は、4,659,164円相当の商品を寄贈しました。



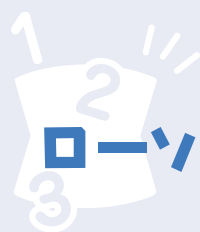
寄贈先から届いたお礼の手紙

みんなを元気に

特集4

「元気プロジェクト」で コミュニケーション を強化

オーナーさんやクルーさんが元気にやりがいを感じて働けるように、さまざまな取り組みを実施しています。イベントやアンケートへの参加などを通じて、コミュニケーションを深めることにより、元気な店舗づくりを応援します。



ローソンの気になる数字

■ “くるばん”
参加バンド数

185組

■ “くる弁”
応募数

272件

元気なクルーさんを応援する企画

● ローソンクルーバンドコンテスト“くるばん”

2008年4月より店舗からお客さまに元気を発信する「ローソン元気計画」を展開しています。その一環として、ローソンで働く元気なクルーさんのバンドを応援する「ローソンクルーバンドコンテスト“くるばん”」を開催しました。参加資格は、「ローソンで勤務するクルーさんが一人以上参加している、プロ契約していないバンド」です。2008年8月にエントリーを開始し、総勢185組が参加しました。

一次選考では、くるばん選考委員会により12組が選出され、決勝審査では一般投票と特別審査委員会による最終選考が行われました。

その結果、優勝バンドの初代“くるばんキング”には、男性3人組バンドの“PINCH COX”が輝きました。優勝バンドの楽曲は、2009年2月にローソンCSほっとステーション(店内放送)で流れました。また、着うた配信サイトへの登録も行われ、全国に楽曲をお届けしました。

ローソンは今後も音楽が大好きで、夢と希望を持ちながら日ごとの勤務に励んでいる元気なクルーさんを応援します。



ローソンセミナーで演奏する“PINCH COX”

●クルー弁当コンテスト“くる弁”

マチの味を全国のお客さまにお届けすることにより、元気を発信したいと考えています。そこで、マチを一番知っている、各店舗で働くオーナーさん、店長さん、クルーさんがそれぞれの地域の特徴を生かしたメニューづくりを行う「クルー弁当コンテスト“くる弁”」を開催しています。

テーマは、マチ独自の食材や調理法で作ったメニューに、さらにこだわりの味付けやトッピングをしていること。2009年3月に募集を開始し、4月まで総勢272件の全国の個性の詰まったオリジナルレシピが寄せられました。2009年10月には、全国7支社から各1名の「くる弁キング」が選出され、それぞれの支社が担当するエリアで販売する予定です。また、2010年2月には、各エリアでの販売結果と特別審査委員の審査をもとに優秀作品を選考し、晴れて全国発売する予定です。

ローソンはこれからもマチの“おいしい”とともに全国に元気をお届けできるよう取り組んでいきます。



オーナーさん、クルーさん コミュニケーション活性化企画

「元気になるーソン! プロジェクト」の中で、2008年秋に「店舗が取り組むエコ」を募集しました。このアンケートは、エコな取り組みをこれまで以上に店舗に広げていくとともに、エコを考えるきっかけとすることを目的に行いました。回答では、レジ袋や割り箸を渡すときの積極的な声かけ、使用していないときのバックルームの消灯など、さまざまな取り組みが寄せられました。その各店舗の取り組みは、店舗向け経営情報誌『Pal』で紹介されました。

また、2009年秋から使用されるユニフォームのデザインの変更にあたり、オーナーさん、クルーさん、社員を対象にアンケートを行いました。アンケートは、4種類のデザインを提示し、投票を行う形です。ユニフォームは、青いストライプのイメージが定着しており現行デザインへの支持も高かったものの、最終的にはストライプを生かした新デザインに決定しました(新ユニフォームについてはP14を参照)。



エコアンケート



VOICE スタッフの声

“元気”をつくるヒトとヒトとのコミュニケーション



元気になるーソン! プロジェクト
プロジェクトリーダー

こじま えり
小嶋 衣里(右)

こじま あきら
児島 聡(左)

これまで「元気になるーソン! プロジェクト」の活動をしてきて実感することは、“元気”にはヒトとヒトとのコミュニケーションがとても大切だということです。商品アイデアコンテストやスポーツ大会など、オーナーさん、クルーさん、社員が明るく元気になるさまざまな施策を行ってきましたが、すべての施策がコミュニケーションの活性化につながります。

プロジェクトを立ち上げたばかりのころは、ほんとうに手探り状態でした。活動を続ける中で、元気なヒト、がんばっているヒト、明るいヒトに会うことができ、そんなヒトたちに元気をもらいました。そして、たくさんの出会いを通して、社員と社員、オーナーさんと本部のコミュニケーションを活性化する必要性を強く感じています。

元気にはいろいろな形があります。お店も会社もますます元気になって、マチも日本も世界も地球も元気になるようみなさんの背中を押し続けます。みんなで「元気になるーソン!」